和歌山県立
日高高等学校
SGH通信
第２１号
２０１９年2月１９日

ベトナム研修 その１

SGH 海外研修　産業

2019 年 1 月 14 日 ～ 19 日

今年度は２年生５名、１年生２名の計7名が参加しました。事前研修では、ベトナムの産業についてはもちろん、日高町商工会とも連携し、町が取り組むベトナム観光客誘致事業について理解を得ることができました。

チャンフー高校では、総学の授業で取り組んでいる日本の農産物の直営店に関するプレゼンテーションを行ったほか、「農家の後継者不足」等の話題で英語ディスカッションを行いました。

ハノイとホーチミンという南北二都市で実施したこの研修では多くの機関にご協力いただき、外交関係や国際支援、現地における人材育成等、貴重な学びを得ることができました。

主な研修内容

1/14　出国・ハノイ市内研修
1/15　JICA、VJCC（国際支援）
　　日本大使館（日越外交①）
1/16　チャンフー高校との協働学習
1/17　NICﾒﾀﾙﾌﾟﾛｾｯｼﾝｸﾞ（産業研修）
1/18　日本国総領事館（日越外交②）
　　ミライヒューマン（人材育成）
1/19　帰国

JICA 研修

市内

報告① 研修を経て考察したこと

ＪＩＣＡでは、ベトナムに関する基礎事項のほか、発展するうえで大切なことやＧＤＰ、インフラ整備について学べた。タイ、シンガポール等の状況にも触れることができ、よい勉強になった。学びを振り返る中で、先に先進国となった国々とベトナムを比較しても面白いのではないかと考えた。

ＶＪＣＣでは、訪問させてもらえたからこその知識が得られた。たとえば、入試制度では教科の差や大学の選択基準等に、私は日本との違いを感じた。

日本の入試制度では自分の得意な教科、そして共通教科で受験するが、ベトナムでは「英語」「文学」「数学」の三つを受けるのが一般的らしく、この三教科が重要視されているようであった。日本でいうセンター試験だけが合否に関わってくるということだろう。ということは、必然的に文系の生徒が有利になる。理系教科の教育水準が低いのではないかと疑問を抱いた。

しかし、チャンフー高校を訪問した際、隣の席の生徒は「化学が好きだ」と言っていた。また、他の生徒たちと夢の話になった時、物理化学者や地学関係の仕事など、理系の職業がよく挙がっていたように思う。さらに、この学校は２０１５年ＰＩＳＡの科学的リテラシー部門で世界８位の成績を収めている。このことから、理系教科の教育水準が低いわけではないと考察できた。

個人的に興味深く感じたこの入試制度について、帰国後、もう少し深めて考えていきたい。

２年１組　石井愛美